

【別紙2】

調査員養成カリキュラム（案）

【別紙2】 調査員養成カリキュラム（案）

大項目	中項目	小項目	研修の趣旨と到達目標	カリキュラムを検討する上での変動要因
介護保険制度の理念と情報開示の標準化(1日目:13:30-15:00、1.5h)				
本研修の目的と学習内容	「情報開示の標準化」が必要となる背景 本制度における調査員の役割	<研修の趣旨> 前提知識として介護保険制度の概要について学習し、介護保険制度の全体の中での「情報開示の標準化」制度の意義、および調査員の役割についての理解を促す。		
介護保険制度の理念 サービス提供の流れ	要介護認定 保険給付の種類と内容等 ケアマネジメントの機能 ケアマネジメントの方法論	<到達目標> 生活支援の視点、サービス提供の流れ、ケアマネジメントの機能と方法論について正しく理解する。		介護支援専門員等の専門家が調査員になる場合、研修免除となる可能性あり
調査対象サービスに関する基礎知識(1日目:15:00-19:00、4h)				
事業者および施設に関する規定	各サービスの基礎知識	訪問介護 訪問入浴介護 福祉用具貸与 通所介護 特定施設入所者生活介護 介護老人福祉施設 介護老人保健施設	<研修の趣旨> 調査対象サービスに関する基本的な知識を学習する(ビデオ学習を含む)。 <到達目標> 各サービスの内容と事業者の指定基準の概要を理解するとともに、現場で行われているサービスについてイメージ持てるようとする。 *具体的な実務については、実際にサービス提供の現場を見ることが望ましいが、すべての業種についての訪問実習は難しい。この集合研修では概要にとどめ、研修修了者の資質や、業務上の必要性に応じ、各調査主体で追加的に研修を行う必要がある。	介護支援専門員等の専門家が調査員になる場合、研修免除となる可能性あり
第三者評価と情報開示の標準化制度の概論(2日目:9:00-10:30、1.5h)				
第三者評価が必要となる背景と意義・目的	第三者評価が必要となる背景 介護サービス評価におけるこれまでの取り組み 介護サービス評価関連法令・通知等 第三者評価の意義・目的	<研修の趣旨> 第三者評価に関する理論的な背景と、実際にこれまで行われてきたサービス評価を学び、「情報開示の標準化制度」の目的と手法を、既存の第三者評価制度と対比しながら学習する。		法令の内容によって変動
サービス評価に関する基礎知識 医療・介護分野における他の評価制度の概要 情報開示の標準化制度の目的と手法		<到達目標> 本制度の目的(利用者への情報開示)と全体像、既存の第三者評価制度との違いを正しく理解する。		
情報開示の標準化制度の概要(2日目:10:30-12:00、1.5h)				
情報開示の標準化における調査員の役割	組織体制	組織体制の全体像 調査機関(基本的な考え方、要件等) 調査員(基本的な考え方、要件、養成方法等)	<研修の趣旨> 「情報開示の標準化」制度の概要と、その中の調査員の役割について学習する。 <到達目標> 本制度の組織体制、調査プロセス、情報開示の標準化における調査員の役割について正しく理解する。	
調査プロセスの概要		調査申し込みの受付 事前準備(基本情報、自己評価、調査実施計画の作成) 訪問調査 実施主体への調査報告書の作成 事業所への報告書の作成 異議申し立て 調査結果の確定 結果の公表		組織体制、評価プロセス等についての方針により変動

大項目	中項目	小項目	研修の趣旨と到達目標	カリキュラムを検討する上での変動要因
		調査員の心得(2日目、13:00-15:00、2h)		
	調査員の行動規範	介護サービス利用者の理解 利用者の権利擁護のための基礎知識 調査員の倫理と行動規範 守秘義務 礼儀・言葉遣い・身だしなみ等の基本的態度	<研修の趣旨> 調査を行う前提として、痴呆性高齢者等の介護サービス利用者の疾病・傷害、心理、生活等を理解し、人権侵害を防ぐための基本的な知識を得、公正・中立な調査を行う上で必要となる調査員の行動規範と心得を学習する。 <到達目標> 調査員の行動規範、倫理、守秘義務および基本的態度につき、調査実務に即して理解する。	
	事業所情報開示項目の理解(2日目:15:00-19:00、3日目:9:00-12:00、7h)	事業所情報開示項目と指定基準との関係 事業所情報開示項目の構成 基本情報項目・調査情報項目の判定方法(共通基準) 基本情報項目・調査情報項目の判定方法 (サービス別の項目)	<研修の趣旨> 情報開示の標準化における事業所情報開示項目の考え方および個別の基本情報項目・調査情報項目の判定方法について理解する。 <到達目標> 事業所情報開示項目の使用方法について正しく理解するとともに、調査員による結果のばらつきが生じないよう、判断の基準や先入観・感情が入りやすい場合等について理解する。	他の部会における事業所情報開示項目の検討結果により変動
	調査実務の理解(3日目:13:00-19:00、6h)	調査実務の流れ <調査員> 調査申し込みの受付 調査事前準備 訪問調査 調査報告書の作成 事業所への報告 <機関> 調査結果の確定 調査実施上の留意点 結果の公表	<研修の趣旨> 調査員の実務について理解する。 <到達目標> 調査実務の全体の流れと、各プロセスにおける実務の詳細について理解するとともに、研修終了後に不明な点があった場合でも、テキストの該当箇所を随時参照しながら対処できるようにする。	組織体制、評価プロセス等についての方針により変動

大項目	中項目	小項目	研修の趣旨と到達目標	カリキュラムを検討する上での変動要因
ケーススタディ、ロールプレイング等(4日目:9:00-12:00、13:00-18:00、8h)				
	面接の基本		<研修の趣旨> ロールプレイの手法を用いて、調査員の調査時の統一的な態度・コミュニケーション技術を習得する。	
	調査員の基本的態度		<到達目標> 挨拶、口調、姿勢等の調査員としての基本的態度の形成。調査目的に合致した質問の仕方、応答の仕方等の習得想定される困難への適切な対処方法の習得。	
	コミュニケーション技術演習			
	事例演習		<研修の趣旨> 複数の模擬事例を用いて調査実務を演習し、実技能力を高めるとともに、調査員によってばらつきのない調査結果が得られる能力を習得する。なお、演習では、小グループ討論方式を活用する。 <到達目標> 判断に迷う事項の統一的見解の習得。合議方法の習得。調査情報項目の習熟と適切な調査報告書、フィードバック。	
レポート、テスト(5日目:9:00-12:00、3h)				
			<研修の趣旨> 研修の理解度を測るために、研修全体を通じたレポートやテスト(あるいは各単元ごとの小テスト)等を実施する。	
評価実習				
	実習事業所における実習、または本調査への同行実習		<研修の趣旨> 現場での実習により、事前準備も含め、全ての調査に共通する基本的な調査を実践的に理解する。	
	オリエンテーション		<到達目標> 基本情報項目の読み方、調査実施計画の作成等の事前準備、調査の実施方法を具体的に学び、本調査を実施できるレベルまでスキルを高める。	
	実習			
	実習の振り返り		*同行実習が望ましいが、同行実習が可能な水準の熟練した調査員が育つまでの間は、実習の部分は柔軟に取り扱う必要がある。	実習先の確保、研修時間の関係で、実施が困難である可能性がある。